

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500149		
法人名	株式会社 鎌田電設		
事業所名	グループホーム さざなみ		
所在地	熊本県天草市有明町赤崎1974番地		
自己評価作成日	平成23年1月24日	評価結果市町村受理日	平成23年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.in/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=4391500149&SCD=320
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成23年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◎立地が、地区の中心部にあるということもあり、日々、地域の方々との交流の機会を多く持っているといます。地区の子供から、お年寄りまで、日々、ホームに立ち寄りやすい環境作りを心がけており、訪問も多くしていただいております。敷地内には、自家栽培の畑も作っており、入居者様と職員と地域の方々協力して、野菜作りをしています。季節の野菜を作ることにより、入居者様にも、季節感を感じやすい工夫をしております。また、買い物も、入居者様が、歩いていける距離にスーパー等あり、いつでも希望があれば、職員と一緒にいける環境づくりをしております。常日頃から、地域の方々を招いて、催しごとをしたり、しております。4月に開所したばかりですが、地域の方々のご協力も多く、入居者様が安心して、暮らせる環境作りを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年有明町で電設会社を運営する開設者の、「お世話になった地元の人々に感謝の意を込めて、ご奉仕をしたい」という思いが、ホームの礎となっている。入所者が安心して生活できるホーム作りと共に、クリスマス会や消防訓練など、ホームの行事には、常に地域の方々の参加を促し、協力を得ながら地域交流を大切に運営している。開設から1年未満にもかかわらず、すでに地域に欠かせない交流の場となりつつある。また、地元の高齢者を支えたいという若手職員一人ひとりの目は輝き、優しく、力強い。和やかで、開放的なホームの存在は、住民にとって大いに頼りになる、大切な社会資源として期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所当初からの理念を大切に、スタッフ一同、共有し、実践に繋げている	開設者である母体法人社長が、有明町で事業を興し、長年支援を頂いた地元住民への「感謝の気持ち」、「お世話になった地域の方々へご奉仕をしたい」という熱い思いを礎とした理念を作っている。施設長は開設者の意向を記載した開設主旨を全職員に配布し、理念に込められた「思い」を説明し、職員のケア実践の基本としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様が、昼間等、外に散歩に行かれる事が多く、途中地域住民の方々に声をかけられ、一緒に世間話をしたり、ホームに招待されたりして、交流をもっている。	開設準備段階で、地元6つの行政区会合に出席し、地域密着型サービスの意義や、認知症について説明を行ない、地元住民への周知と理解に努めた。折りにふれ、地域に声かけを行い、老人会の会合には場所の提供を申し出たり、ボランティアを依頼するなど、地域の一員としての交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を求める為、ホームのイベントへの参加を呼び掛け、ご協力をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、学識経験者や、地域の代表者に参加して頂き、貴重な意見をお聞きし、ケアに繋げている。	老人会長・区長会長・民生員・行政職員・社協支所長・家族会代表等の参加で開催。ホーム側の事業報告後行なわれる意見交換では、消防訓練に地域住民の見学を促したり、合同誕生会の料理作りにボランティアを依頼するなど、常に地域との交流を意識した話し合いが行なわれており、地域密着型サービスの向上に活かしている。	自己評価・外部評価等で発見された課題も委員会で報告し、更なるサービスの質の向上に活用されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも、参加していただいている。直接、話し、助言指導等いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が拘束防止に努めており、現在まで拘束は行っていない。	玄関は施錠せず、センサーのチャイムで出入りを見守っている。施設長は、認知症への対応について、本人の立場で話を聞き、言葉使いに注意を払い、抑圧感のない環境と暮らしの支援に努めるよう職員を指導し、実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員が、虐待防止に努めており、注意をはらっている。市が開催している講義等にも積極的に参加しており、知識を学び、現在までは、虐待はない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネージャーのみ理解している。今後、全職員で勉強する機会を作っていくたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までには、3人の職員が立ち会い、十分な説明が出来ているか、確認しながら、慎重に行っている。十分な説明を行い、理解、納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や、電話等で、定期的にご要望を聞き、取り入れ、改善できるように心がけている。	毎月の支払や面会で家族訪問があった際、居室で話を聞くように努めているものの、意見は少ない。	入所期間が短い入所者もあり、家族からの要望が少ないのも理解できる。話し合う機会を重ねる工夫で、信頼関係も構築され、意見や要望が出しやすい環境づくりも可能になると思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議中や申し送り時に、良い意見は取り入れ、改善できるように心がけている。	開設後1年未満で管理者の交代があり、組織の基盤づくりに努力されているが、職員の意見等を反映するためのコミュニケーション環境作りはこれからの課題と見られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設者も、常日頃、ホームに来て、職員の意見を聞いている。職員も意見を自由に言える環境にあり、働きやすい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には、前もって通知し、希望者が参加出来るようシフトも調整することにより、参加しやすい環境作りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に職員には、参加するよう声掛けをしている。研修会に参加し、交流の場を増やすようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様の困り事、心配事を常に傾聴し、安心出来る関係を作っていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様の納得されるサービスを行っていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症対応型を理解して頂き、ご本人様、ご家族様に適切なサービスを理解して頂き、利用してもらう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の思い、言葉を大切にし、利用者本位で、人生の先輩として尊重し、良い雰囲気作りをしていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様への意見、依頼時には、すぐに連絡し、ホームでの行事、昼食会、クリスマス会等への参加をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物の希望時には、職員と一緒にいく。電話等の希望時にもすぐに対応する。	家族・知人からの電話取次、友人の来訪を歓迎、農協売店まで買い物に出掛けるなど、本人の声を聞きながら、馴染みの関係継続支援に努力している。十分な要望の引き出しまでは至っていないように伺えた。	「大切な思い出や」、「子供の頃の話」等を聴いたり、ゆっくりとした時間を一緒に過ごしながら、関係継続支援の工夫を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ時等、皆で集まって食べたり、会話をしている。職員も一緒に参加し、孤立する人がいないよう、見守りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、訪問したり、電話等で連絡をとったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中から、その人に応じた希望、意向を把握している。	食事の好き嫌いなど、入所者の本音を知るために、居室で雑談をしながら、意向の把握に努力している。	理念に基いて「ゆっくり・じっくり・しっかり」話を聴くことへの努力で、一人一人の秘められた思いや、希望の声を汲み取り、支援につなげると、更に良いと思われた。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで関わりを持った方々、医師等に情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルサインチェックし、1人1人の健康状態を把握し、申し送り時に伝達する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様、担当介護員と話し合い、その人に添うような計画をたてている。	入所に際し、本人・家族からの希望や、主治医、ケアマネジャーからの情報を参考にして介護計画を作成。管理者が6ヶ月ごとに、本人や家族の希望を聴き、モニタリングを行い、担当職員の意見を取り入れながら、本人本位を大切に計画見直しを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画にそって日々、送っているが、体調変化時には、ご家族様、医師と相談し、検討し、計画変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の思い、言葉を大切にし、利用者本位で、人生の先輩として尊重し、良い雰囲気作りをしていく。体調変化がある時には、状況に合わせてサービス変更し、希望等を取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子供会のお祭りに参加させて頂いたり、ホームでの昼食会、クリスマス会等の行事等の参加を呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望を聞き、適切な援助が出来るようにしている。	かかりつけ医への受診や、月2回の定期健診は、家族依頼を原則とする。緊急時で、家族が同行できない場合は、家族の許可を得て職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態の報告をし、次の受診に援助ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要な場合、主治医との連携、ご家族の希望される病院への対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前に主治医に相談し、緊急時の対応を聞いている。	開設以来1年未満であり、重度化や、終末期に向けた方針の策定は、これからの課題としている。	入所に際し、重度化した場合の事業所の出来ることを十分に説明し、利用者と家族の理解を得ることは大切であると思われる。また、事業所の方針を明確にし、職員への説明・共有がなされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、主治医に相談することとしている。又、経験の浅い職員がいる為、勉強会を取り入れたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、年2回行い、全職員や地域の方々にも参加してもらい、ご協力を得ている。	9月に初めての火災訓練を実施。近隣企業を代表してJAや信金、また地域住民も参加しての開催で、災害への対応を地域で再確認できた。非常通報装置の作動・住民による放水実践、職員による入所者の避難誘導、スプリンクラーのデモ放水、心肺蘇生法を行ない、終了後は発見した気づきや、問題を話し合い、改善に取り組む姿勢が見られた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保、自尊心を傷つけないよう声掛けを行っている。問題があれば、注意を促している。	男性入所者の割合が高く、職員は入所者の職歴や現役時代の立場を把握して、一人ひとりの誇りを大切に言葉掛けを行い、支援していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お1人お1人に言葉掛けを行い、難聴の方には、ゆっくりと大きな声で伝えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、その人のペースに合わせて、無理はしないようにしており、見守りを重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつでも、来訪者があってもよいように、定期的に訪問理容を利用されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご希望の料理を聞いてみるが、「何でも良い」との声が多い為、職員で工夫し、利用者様と準備片付けは、一緒にしている。	職員で手分けして献立を作り、調理し、家庭的な食事を提供している。エビ・刺身・麺類等が人気。誕生会では職員の手作りケーキで祝い、2月は巻き寿司を作って「恵方巻き」を楽しむなど、支援への努力が伺われた。法人代表が育てた菜園の野菜は、入所者も楽しみに収穫し、季節の食材としてテーブルを賑わしている。	献立・味付け・盛り付け・彩り・柔らかさ・食べやすさ・量・器・季節の花・食事の準備を待つ間の会話等、食事を楽しむための更なる工夫を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員で案を出し合いながら作るようにしており、水分が少ない方には、チェック表で確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人で出来る方には、声掛けのみ行い、他の方は、洗面所まで誘導し、職員と一緒にやっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分でできる方は、見守りし、トイレ誘導し、困難な部分のみ介助を行っている。	入所時、要介護度4のオムツ使用者が、適切な誘導で要介護度2でパンツ使用に改善した例がある。職員は編み物支援等による脳活性化の効果かと感じている。一人ひとりの排泄パターンを記録し、誘導と見守りをしながら、自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に水分摂取を行って、記録もとり、脱水症などの予防に努めている。 排便困難時には、医師に相談するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	清掃保持の為、毎日入浴をしていたが、冬場は「毎日入りたくない」との利用者様からの要望が多かった為、希望に添っている。	浴場は広く、檜の大きな湯船にたっぷりの湯量。夏は毎日入浴可能。冬は入所者の声で、一日おきとなっている。菖蒲湯や柚子湯など、季節感を楽しむ支援もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は、出来るだけ起きていて頂くようにしているが、身体状況に合わせて個別に対応している。休みたい時には、休んでいただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように、服用時には、氏名・時間帯を声に出して伝えることにより、他の職員・本人様にも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人が出来る事を活かし、洗濯物干し・たたみ、食器拭き、食事の準備、カラオケなど職員と一緒にするようにしている。 本人様が出来る範囲で、したい事を聞き、一日が有意義に過ごしていただけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望で、買い物や散歩をしている。また、ご家族様にも、ご本人様の趣味や、好きな事を聞いたりして、日々の生活に取り入れるようにしている。	農協売店への買い物や、近隣の散歩は行なわれているが、外出は比較的少ないように伺えた。	近くの公園や季節のお花見、ちょっとドライブなど、行ける人、行きたい人から、小さなお出掛け、近くへの外出を始めてみるのも良いと思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、所持されている方は、病院代や、日曜品等、自分で買い物をさせていただく環境作りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の依頼があった場合は、すぐに、とりつぐ、又ご家族様と、週一回と決めていらっしやる方もいる。手紙は、現在ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい明るさで、清潔保持の為に毎日清掃している。 室内が淋しくならないよう、カレンダー・写真等で居心地良く過ごせるようにしている。	オープンキッチンのある広いリビング・ダイニングは、天井が高く、明るい空間となっている。大型テレビの前には大きなソファが置かれ、ゆっくりと寛げる空間となっており、リラックスした入居者の姿が見られた。冬場は、畳敷きに大きな掘りごたつも用意され、居心地良く過ごせる環境となっている。クリスマスや節分の様子を撮った写真の掲示から、行事を楽しむ入所者の暮らしぶりも伺うことができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースには、ソファ・テーブル・テレビ等を配置し、和室には、レクリエーションの道具を置き、いつでも自由に出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅と変わらない生活をしていただきたい為、使い慣れたもの、馴染みの者を持参していただいている。 職員等が、入室の際には、了解を得ている。	昼間でもカーテンを引き、薄暗くしている部屋、家族写真や仏壇のある部屋など、本人の心地よさを大切にしている。日中は殆どの方がリビングで過ごしており、居室は寝室という雰囲気が多いように思えた。	比較的殺風景な部屋が多く見られた。家族と相談しながら、飾りつけをしたり、馴染みの品物を持ってきてもらうなど、それぞれが居心地よく過ごせる居室づくりの工夫が必要と思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やお風呂には、札をさけ、トイレは夜間は場所が分かれるように、電気をつけて誘導している。		